

## 第545回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1 波介川（はげがわ）河口導流事業

土佐市新居

波介川は一級河川仁淀川の河口から 2.2km 付近に合流する右支川で、流域面積 73.3km<sup>2</sup>、流路延長 19.0km で土佐市を流れています。洪水時には仁淀川本川の水位が波介川より高くなり、また波介川流域は、上流に行くほど地盤が低い低典型地形であるため、土佐市中心部は過去幾多の水害を被ってきました。

波介川河口導流事業は、現在の合流点を仁淀川河口部へ付け替え、洪水時において仁淀川からの逆流による影響を除き、波介川の洪水を安全に流下させ、内水被害を大幅に軽減させるものです。

本事業は、平成 15 年度に緊急対策特定区間に設定され、完了目標年度は平成 24 年度としていましたが、平成 16 年、17 年の 2 年連続の大規模な浸水被害を契機に、平成 19 年度より「床上浸水対策特別緊急事業」を活用し、重点的に推進しています。

これにより完成年度を平成 23 年度と 1 年前倒しすることができ、平成 17 年 9 月洪水と同規模の洪水に対して、床上浸水被害の解消を図っています。



床上浸水対策特別緊急事業とは、被災後の復帰に多大な労力を要し、経済的・身体的に大きな負担となる床上浸水が頻発している地域において、特に対策を促進する必要がある河川を対象として、概ね 5 年間で重点的、緊急的かつ総合的に治水対策を実施するものです。

### 2 高知県立牧野植物園（南園）改修工事

高知市五台山

牧野植物園は昭和 33 年（1958）に、高知県が生んだ植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰する施設として、高知市五台山に開園した施設です。

本園では、開園五十周年を記念して開く「五台山花絵巻」（会期：平成 20 年 4 月 1 日～6 月 30 日、主催：牧野植物園・高知県）の開催を契機に南園の改修工事を行いました。

これにより、高齢者らが散策しやすいよう急こう配の地形をスロープ状にし、バリアフリーなどに配慮しました。平成 20 年 3 月下旬には、雄大な谷地形や歴史を伝える古道「お馬道」などの資源を活かし、サクラソウ、カキツバタなど、代表的な日本の伝統的な園芸植物を一堂に集め、歴史ある園地を活かしながら、華やかさと気品に満ちた庭園へと生まれ変わりました。



### 3 高知駅周辺都市整備事業

高知市比島町～福井東町

高知県と高知市が一体となって行う高知駅周辺都市整備は、県が施行する連続立体交差事業、市が施行する土地区画整理事業、県・市が施行する関連街路事業の 3 つ事業を柱として実施しており、21 世紀の新たな高知の街づくりを目指しています。

その中の一つである当事業は、平成 9 年 1 月に都市計画事業認可（建設大臣認可）を受けた高知・入明・円行寺口の 3 駅を含む約 4.1 km 区間の鉄道高架事業であり、円滑な南北交通を実現し、11 箇所の踏切による渋滞の緩和、南北市街地の一体的な発展を図るものです。

また、当事業の大きな特徴は、景観を重視した公共構造物を目指しており、その実現のため鉄道高架橋と高知駅舎について、景観検討委員会を立ち上げました。その景観設計の一つであり県民の財産である大屋根「くじらドーム」は高知駅舎をすっぽりと覆う構造で、日本では例がありません。単に駅舎の屋根というものではなく、高知の新しいシンボルとなるようデザインしており、構造の主要部材や天井に高知県産杉材を使用し、木の暖かみをかもし出しています。

